

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 3 月 9 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491500785		
法人名	医療法人社団 ひがしの会		
事業所名	グループホームえんじゅ千織り庵		
所在地	広島県福山市王子町2丁目4-17		
	電話番号	084-926-0833	
自己評価作成日	平成 30年 1月 2日	評価結果市町村受理日	平成 30年 3月 30日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.higashinokai.jp/
----------	---

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 30 年 2 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所のコンセプト「千の想いを紡ぎ織り上げ、笑顔と温かさで包み込む家」にあるように、施設に居ても家庭の雰囲気を感じられない、介護施設らしくない環境を意識しています。事業所が住宅街の中に位置している事から、地域との繋がりを大切にしており近隣の方々との交流や地域行事への積極的な参加も利用者の方と行う事で繋がりを深めています。同時に、ご家族との関わりも途切れる事のない様に行事参加の呼びかけや日々の面会、受診同行等の依頼を行い、充実を図っております。1ユニットという小さな事業所ですが、利用者の方々と職員、家族様や地域が信頼関係を築き、個々の意志を尊重しケアに当たる事で日々の生活を安心して、そしてのびのびと過ごして頂ける様心がけています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地の中にあるが、近隣には行政機関、大型スーパー、水辺の公園等があり、立地条件が良い場所である。事業所の目の前には畑もあり、時折その時々収穫をみる事ができ季節が感じられる。又、収穫された野菜を頂く事もある。地域との関わりも、今では構築され、町内会の総会や防災訓練、時どきの会合にも参加し、地域の一員として理解が得られ交流が深まっている。地域行事にも積極的に参加し、顔見知りの関係も築かれている。ケア面に於いては、一人ひとりに沿った細やかなケアで常に寄り添い、一人ひとりの尊厳を大切にされた対応を心掛けてると共に其の人の力量が発揮できる場面作りをされ張りのある生活に繋がられている。また、併設の事業所と合同で行事(千織り庵祭り)等を行い、利用者同士の交流も図られ馴染みの関係が築かれている。医療面も訪問看護師が週1回訪問し、健康管理をされていると共に協力医療機関との連携も密に図られ夜間や緊急時等適切に指示が得られる体制ができていて安心である。利用者も9人という事もあり、家庭的で家族の様に穏やかに過ごされている。特に管理者はどの様なリスクに対しても、絶対に身体拘束はしない方針で全職員と要因や対応方法を密に話し合い、見守り強化と色んな工夫を重ね、抑圧しない支援に取り組まれ、利用者一人ひとりが自分らしく一日を大切に自由に過ごしてもらおう事を第一に考えられている。今では地域と共に歩まれその地に根づき、安心できる事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は事務所や玄関前廊下への掲示、会議での周知を行い職員間共有する事で実践に繋げている。	企業理念、法人目標、事業所目標を基に個人目標を作成し、上期と下期で評価し、達成に向け職員一人ひとりが実践に繋がられている。日々理念や各目標を会議でも周知し統一した支援に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や会合、懇親会に事業所として積極的に参加する事で地域の一員として日常的に交流することができている。	町内会に加入し、町内会便りで行事を把握し、季節ごとの行事には積極的に参加すると共に地域の総会や防災訓練等にも地域の一員として参加されている。又、事業所の千織り庵祭り等の行事にも参加が得られ、今では密に交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事にお客様と一緒に参加し交流する事だけではなく、運営推進会議等の場で『認知症について』の議題を設け、一緒に勉強したりすることで活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催。運営状況やお客様の事を報告、いただいた意見を元に会議後の意見交換を行っている。すぐに取り入れられるものは取り入れサービスの質向上に活かしている。	家族、地域の役員、民生、行政(2名)、包括支援センター等の参加の下、運営状況等多岐にわたり報告すると共に日々の状況はDVDを渡し、把握してもらって、それぞれの立場から多くの意見が得られ、サービスに活かしている。災害訓練や勉強会となる事も充実した会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課や地域包括へは都度相談を行ったり、利用につながる為の情報提供を受けたりと、協力関係は築けている。	運営推進会議への参加が毎回あり、現状は把握してもらっているが疑問点や問題点等がある場合はその都度問い合わせ助言や情報提供などを得ている。又、包括との連携築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の玄関と裏口については防犯上施錠しているが、日中は施錠を行っておらず4点柵やベルトの使用は行っていない。 マニュアルを使用し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	基本拘束はしない方針であり、見守りと声かけで対応され、リスクに対しても職員間で密に話し合い、対策を考える等広範囲に検討しながら、抑圧した支援をしない様取り組まれている。事例を基に研修も行い、全職員が正しく理解され、玄関の施錠を含め身体拘束となる行為はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所勉強会を実施。 毎年、事業所の年間スケジュールに組み込みマニュアルを活用しながら勉強、振り返りの機会を設け虐待がないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を使用されているお客様はおられないが、会議等の勉強会や自己学習をする事で制度、仕組みについて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時やサービスプラン変更時には、必ず説明を行い、不明な所については説明し理解納得をしていただいた上で、署名・押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回お客様アンケートを実施。アンケート結果やいただいた意見を会議や回覧、掲示を行い職員間で周知し、対策を検討、実施。玄関窓口へのご意見箱を設置している。	訪問時や計画作成時は下より、行事等でも状況報告する中で把握する様努めている。又、毎年家族アンケートを取られ、意見や要望等の結果、改善策などを検討し、検討内容を明記し、だれも見える場所に掲示すると共に家族へも結果を伝えられ、運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談等、必要に応じてその都度職員の話聴く機会を設けている。	日々気付きがあればその都度聞くように努められている。又、会議等でも聞く機会を設け、職員の意見は大切にされ、一つ一つの意見を皆で検討し反映させている。個人面談も年2回実施されている。信頼関係が築かれ言いやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や上司評価を元に職員個々の実績等を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境、		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する法人内外の研修に参加する機会を確保する為に、シフトを調整し参加できるようにしている。参加者が増えるように、事業所内研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加し、他事業所の方と交流や意見交換等行う事で自事業所に戻ってもサービスの質の向上に繋げている。他事業所での実習等を行う場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の声に耳を傾け、お客様から教えて頂いた事を職員間で共有することで安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の声や想いに耳を傾け、聞き取りを行ったり教えていただいた事を職員間で共有する事で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様が必要としている支援が何なのかを見極め、職員間でも話をしその時に合った対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や何気ない会話、作業を一緒に行う事で共に過ごし、支え合えあう関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	想いを知ることで家族様と共に支え合えるような関係づくりを行う為に、行事参加への声掛けを行い参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの人や場所との関係が途切れないように家族様に声掛けを行ったり、毎月月初にお便りを発行し関係が途切れない様実施している。	家族や親戚の方の訪問もあり、希望で自宅近くや以前住んでいた近くの神社にお参りする等、出来るだけ希望に沿った支援をされ、馴染みの人や場所との関係が途切れない柔軟な支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったりすることで、お客様同士の関わりが持てるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わった後も、事業所行事への参加の声掛けや、来所して下さった際には近況を聞いたり関係を断ち切らない様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月ごとのモニタリングだけではなく、日々の会話の中で本人の希望や意向が出てきた場合には、会議や申し送り等で共有し把握している。	日々の会話の中や個別対応時(入浴、夜間)等で把握する事が多く、その中での要望や思いは、職員ノートに記録し、共有され、可能な限り思いに沿う様取り組まれている。食べたい物や買い物等の思いが出る。表出困難な方は生活歴や家族からの情報を基に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様から話を聞く事でその方の生活歴を把握するようにし記録に残していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや体調管理、日々の会話や関わりのなかで情報収集を行う機会を意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様の希望や意向を元に職員からの意見とケアマネが話を行う事で、意見やアイデアを計画書へ反映している。	各利用者担当が日々のニーズや課題、家族の要望、職員の意見等を基に担当者会議で検討し、本人本位の柔軟な計画を作成している。モニタリングや見直しは3ヶ月毎に実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況を記録に残し、職員間で情報共有したり見直しの際に活かそうとしているが、記録内容が足りない部分がある場合にはその都度指導を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや、お客様・家族様の希望に沿い、行事等に盛り込みながら柔軟に支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の会合には、管理者等が積極的に参加を行い地域資源を把握。地域行事にはお客様と参加する事で地域に事業所を知って頂く機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には主治医の往診で対応しているが、必要に応じて医療機関の受診をしていただく場合がある。 受診の場合には、基本的に家族様に対応していただく様案内を行っている。	協力医療機関からの往診が月2回、訪問看護から週1回の訪問があり日々の健康管理をされている。訪問歯科支援もある。特変の場合は訪問看護と協力医療機関との連携で示指が得られ24時間安心である。結果等についても家族に報告され共有し安全確保に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回(水曜日)の定期往診や、必要時には電話連絡を行い、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、関係職種が協働しお客様の情報を報告している。 退院に向けてもこまめに情報共有を行いながら、安心して退院して頂けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明を行い、本人や家族様の意向を聞く場合もある。 必要に応じ、本人や家族様の意向を再度伺い、関係職種で連携し話し合いの場を設けながらチームで支援を行うようにしている。	利用開始時、指針を基に説明され、理解は得られている。状況変化が起きた場合は主治医から関係者に説明され、家族の意向を再確認し、三者で方針を共有され想いに沿った支援に取り組まれている。主治医や訪問看護との連携は密にとれている。看取り研修もされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えマニュアルがあり、内容を勉強会等で確認する事で初期対応ができるようにしている。 実践として、緊急連絡網を使用した訓練も実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の事業所での防災訓練、地域で行われる防災訓練には、お客様も一緒に参加している。事業所の防災訓練では、地域の方々にも参加して頂き避難場所へのお客様の誘導や炊き出し等も行っている。	年2回消防署指導の下、通報、消火、避難誘導の訓練を行うと共にAEDの使い方や避難場所の確認等、また、南海トラフ地震を想定し炊き出し訓練も行っている。近隣や民生委員等の参加もあり、地域住民共々も意識が高まり協力体制が築かれている。地域の防災訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者虐待防止や接遇の研修に内容を取り入れ、職員一人ひとりが意識しお客様と向き合うようにしている。	勉強会も行い、職員一人ひとりが意識を持ち、人生の先輩であり、誇りを気づけない言葉かけや対応をする様日々話し合い統一したケアに取り組まれている。馴れ合いになっても節度ある対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や言動の中で、少しでも吸い上げる事ができるよう支援を行い、自己決定できる場面では可能な限り個々に決定をゆだねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にするのではなく、お客様のペースを大切にしながら、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の中で、使い慣れた化粧品類を持参いただき使用されたり、外出の際には本人様と話をしながら着替え等準備を行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやお盆拭き等お客様ができる事は手伝って頂いたり、個々に合わせた食事形態で提供させていただいている。	旬の食材で栄養バランスにも配慮され、個々の身体状況合わせた形態で、食を促す声かけや会話を楽しみながら職員と共に食されている。食器洗いや下膳等、声かけしながら出来る方にはしてもらい張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様の状態に合わせ、細かく申し送りを行いながら、個々に合った形態・量の食事や飲み物を提供している。 摂取内容や量は記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを実施している。 必要に応じて介助させていただいたり、確認を行い口腔内の環境が清潔に保たれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の中で排泄時間や行動パターンを把握した上で、声かけや誘導を行っている。 出来る限りトイレでの排泄が行えるよう支援している。	日々のチェック表や行動、表情等から把握し、個々の時間帯で声かけし、日中はトイレでの排泄に取り組まれ、今までの生活習慣を活かした支援を心掛けている。自立の方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を行って頂けるよう体操の充実や便秘予防の食べ物(オリゴ糖やヨーグルト等)の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は職員の勤務の関係上、午後からと決めてしまっている。 希望やタイミングには限られた時間の中で、本人様に合わせながら対応している。	週2~3回、午後となっているが、其の日の状況に合わせて柔軟に対応している。湯温の希望にも沿うようにし、入浴が楽しみとなる支援に努めている。拒否の場合はタイミングや職員を変える等の工夫をされ、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の臥床時間は出来るだけ本人様に決めていただいている。 夜の臥床だけでなく、本人の希望に沿って休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別、時間帯別の薬札へ用法・用量の記載を行っており、把握できるようにしているが薬一つひとつの副作用までは理解しているとは言い難い。 賞状の変化については記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の声に耳を傾け、楽しみとして歌をレクに取り入れたり、食べたいもののリクエストを聞いたり等気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	回覧版を近所に回す等役割を持った外出や、お客様の言葉に出てくる生まれ故郷へのドライブ、外食の希望に添うための外出等家族様にも連絡行っただけで実施している。	四季の御花見や初詣、地域の行事、外食等に出かけたり、希望でドライブがてら自宅近くまで行く事もある。又、気候の良い日には散歩し外気に触れる機会も持たれている。可能な限り、気分転換や五感刺激、楽しみごとの支援ができる様取り組まれている。近隣のすこやかセンターで開催されている認知症カフェにも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりは基本的に行っておらず、ご家族様管理にさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様からの希望があれば、職員付添い連絡を取って頂いている。 事前に家族様にも了承は得ておく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは、毎月毎に装飾を変更しており季節感を感じていただけるように配慮している。 心地よく過ごして頂くために、温度管理等も行い太陽の光も入れながら明るさの調整も行っている。	リビングは広く死角もなく、大きなソファもあり、ゆったりとしている。壁には行事の写真や季節が感じられる装飾品もあり、明るく、不快な匂いもなく、清潔に保たれている。玄関には大きな雛人形も飾られ、目で愉しむ事ができ落ちついた、玄関、共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置をお客様が過ごしやすいよう変更したり、フロアにあるソファを使用しながらゆっくりと過ごして頂けるように工夫している。 フロア全体が広々とした空間の為、思いおもいに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類、家具、写真等自宅から本人様の馴染みのものを持参していただき、飾らせていただいたり使用する事で、居心地良く過ごして頂ける工夫を行っている。	思い出の写真や家具等が持ち込まれ、その人らしさが感じられ、自宅での生活とのギャップが無い様に配慮され落ち着いて過ごせるよう工夫されている。暦や時計等もあり時の認識に繋がられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所全体がバリアフリーの作りになっており、フロアやトイレ、浴室等には手すりがある為必要に応じて使用して頂く事で、安全な生活を提供している。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらい			○	②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホームえんじゅ千織り庵

目標達成計画

作成日: 平成 30 年 3 月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	職員一人ひとりが意識を持って誇りを傷つけない言葉かけや対応する様部署として取り組んでいるが馴れ合いになった場面での節度ある対応が薄れている。	誇りを傷つけない言葉かけや対応、介助方法を身につけ部署として統一したケアの実施。日々の中で馴れ合いになる場面でも節度ある対応ができるようになる。	参考映像や資料を活用しての接遇、高齢者虐待の研修開催。職員との面談実施。日々の業務内会議等での話し合い。	通年
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。